

2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年8月6日

上場会社名 株式会社ゼンショーホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 7550 URL <http://www.zensho.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長兼CEO (氏名) 小川 賢太郎
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ財務本部長 (氏名) 丹羽 清彦 (TEL) 03 (6833) 1600
 四半期報告書提出予定日 2019年8月6日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	153,319	6.4	4,441	50.1	4,088	42.7	1,923	66.7
2019年3月期第1四半期	144,047	1.6	2,958	△16.0	2,865	△18.8	1,154	△33.7

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 △675百万円(-%) 2019年3月期第1四半期 1,698百万円(65.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	13.23	-
2019年3月期第1四半期	7.90	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第1四半期	364,559	83,222	19.2	482.02
2019年3月期	377,779	87,083	19.1	496.34

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 70,080百万円 2019年3月期 72,162百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	-	9.00	-	9.00	18.00
2020年3月期	-	-	-	-	-
2020年3月期(予想)	-	10.00	-	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	328,640	9.6	12,200	18.0	11,318	12.4	6,238	24.8	42.91
通期	661,367	8.8	23,848	26.6	22,133	21.5	10,460	5.4	71.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期1Q	149,640,445株	2019年3月期	149,640,445株
② 期末自己株式数	2020年3月期1Q	4,251,496株	2019年3月期	4,251,546株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期1Q	145,388,910株	2019年3月期1Q	146,170,982株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。上記予想に関する事項は添付資料の3ページをご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日)におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移しましたが、米中貿易摩擦をはじめとした通商問題や中東情勢の緊迫化等により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、個人消費の根強い節約志向に加え、アルバイト時給単価の上昇に伴う人件費関連コストの増加等により、引き続き厳しい経営環境となりました。

このような状況の中、「すき家」をはじめとする牛丼カテゴリーの既存店売上高前年比は103.3%、「ココス」、「ジョリーパスタ」をはじめとするレストランカテゴリーの既存店売上高前年比は97.3%、「はま寿司」をはじめとするファストフードカテゴリーの既存店売上高前年比は101.9%となりました。

当第1四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、113店舗出店、37店舗退店及びTCRS Restaurants Sdn. Bhd. (以下「TCRS」という)を子会社化した結果、9,719店舗(FC4,273店舗含む)となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高1,533億19百万円(前年同期比6.4%増)、営業利益44億41百万円(同50.1%増)、経常利益40億88百万円(同42.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益19億23百万円(同66.7%増)となりました。

セグメント別の概況につきましては、以下の通りであります。

① 外食事業

外食事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は1,331億5百万円(前年同期比8.3%増)、営業利益は44億48百万円(同54.1%増)となりました。

外食事業における主要カテゴリーの状況は、以下の通りであります。

(牛丼カテゴリー)

牛丼カテゴリーの当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、43店舗出店、6店舗退店した結果、2,928店舗(FC11店舗含む)となりました。

株式会社すき家本部が経営する牛丼チェーンの「すき家」につきましては、お客様の多様なニーズにお応えできるよう、「すき家de健康」をテーマとして、「シーザーレタス牛丼」(並盛税込500円)、「辛口トマレタ牛丼」(並盛税込500円)等を導入し、商品力の強化に取り組んでまいりました。

今後ともお客様に愛される店舗づくりを目指すとともに、安全でおいしい商品を安心して召し上がっていただけるよう、さらなる品質管理の徹底と店舗水準の向上に努めてまいります。

株式会社なか卯が経営する丼ぶり・京風うどんの「なか卯」につきましては、新商品・季節限定商品の投入や既存商品のブラッシュアップによる商品力の強化と店舗販促の実施により、業績の向上に努めてまいりました。

以上の結果、牛丼カテゴリーの当第1四半期連結累計期間の売上高は、532億13百万円(前年同期比5.0%増)となりました。

(レストランカテゴリー)

レストランカテゴリーの当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、2店舗出店、4店舗退店した結果、1,371店舗(FC79店舗含む)となりました。

株式会社ココスジャパンが経営するファミリーレストランの「ココス」につきましては、メニューのラインアップの強化、ごちそう感のあるフェアメニューの投入及び店舗のサービス水準の向上に取り組み、業績の向上に努めてまいりました。

株式会社ビッグボーイジャパンが経営するハンバーグ&ステーキレストランの「ビッグボーイ」等につきましては、メイン商品のブラッシュアップを図るとともに、サラダバー・スープバーの充実やフェアメニューの投入を行うなど、業績の向上に努めてまいりました。

株式会社ジョリーパスタが経営するパスタ専門店の「ジョリーパスタ」につきましては、「パスタならジョリーパスタ」をテーマに、パスタ専門店の魅力をよりお客様へアピールできるよう、メニューのラインアップの拡充や旬の食材を活かした新商品の投入を行い、一層のおいしさを追求してまいりました。

株式会社華屋与兵衛が経営する和食レストランの「華屋与兵衛」につきましては、お客様の満足度の向上を図るため、旬の食材を活かした商品の開発及び店舗従業員の教育強化によるサービス水準の向上、労働生産性の改善等に努めてまいりました。

以上の結果、レストランカテゴリーの当第1四半期連結累計期間の売上高は、302億39百万円(前年同期比2.4%減)となりました。

(ファストフードカテゴリー)

ファストフードカテゴリーの当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、10店舗出店、5店舗退店及びTCRSを子会社化した結果、919店舗(FC6店舗含む)となりました。

株式会社はま寿司が経営する100円寿司チェーンの「はま寿司」につきましては、積極的な出店による業容の拡大を図るとともに、商品品質の向上、店舗サービスの強化等に努めてまいりました。

なお、TCRSにつきましては、マレーシアでチキンライス専門チェーンを展開しており、2019年5月31日付で株式取得を行い子会社化いたしております。

以上の結果、ファストフードカテゴリーの当第1四半期連結累計期間の売上高は、355億59百万円(前年同期比5.1%増)となりました。

(その他カテゴリー)

その他カテゴリーの当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、57店舗出店、21店舗退店した結果、4,365店舗(FC4,177店舗含む)となりました。

当カテゴリーの主な内訳は、米国、カナダ、オーストラリアで寿司のテイクアウト店を展開しているAdvanced Fresh Concepts Corp.、冷凍ピッツァ等販売の株式会社トロナジャパン、グループの物流機能を担う株式会社グローバルフレッシュサプライ、備品・ユニフォーム等を調達する株式会社グローバルテーブルサプライ等であります。

以上の結果、その他カテゴリーの当第1四半期連結累計期間の売上高は、140億94百万円(前年同期比90.5%増)となりました。

② 小売事業

小売事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は、202億13百万円(前年同期比4.4%減)、営業損失は6百万円(前年同期は営業利益71百万円)となりました。

当事業の内訳は、スーパーマーケット事業を展開する株式会社マルヤ、株式会社マルエイ、株式会社尾張屋、株式会社フレッシュコーポレーション及び青果販売等の株式会社ユナイテッドベジーズ等であります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産は3,645億59百万円となり、前連結会計年度末から132億19百万円減少いたしました。これは主に、M&Aに伴う有形固定資産及び無形固定資産の増加、現金及び預金の減少等によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は2,813億36百万円となり、前連結会計年度末から93億59百万円減少いたしました。これは主に、有利子負債の減少等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は832億22百万円となり、前連結会計年度末から38億60百万円減少いたしました。これは主に、為替換算調整勘定及び非支配株主持分の減少等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の業績予想につきましては、2019年5月14日発表の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	57,240	36,665
受取手形及び売掛金	14,310	14,252
商品及び製品	20,936	22,277
仕掛品	692	847
原材料及び貯蔵品	5,611	5,877
その他	15,980	16,425
貸倒引当金	△96	△91
流動資産合計	114,675	96,254
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	196,985	200,406
減価償却累計額	△114,431	△116,902
建物及び構築物（純額）	82,554	83,504
機械装置及び運搬具	13,300	13,510
減価償却累計額	△8,035	△8,335
機械装置及び運搬具（純額）	5,264	5,175
その他	107,714	111,442
減価償却累計額	△53,772	△55,815
その他（純額）	53,942	55,626
有形固定資産合計	141,760	144,306
無形固定資産		
商標権	34,446	33,455
のれん	16,644	22,502
その他	3,568	3,311
無形固定資産合計	54,659	59,269
投資その他の資産		
投資有価証券	3,425	1,839
差入保証金	33,295	33,681
その他	29,862	29,117
貸倒引当金	△14	△14
投資その他の資産合計	66,569	64,623
固定資産合計	262,989	268,200
繰延資産	114	104
資産合計	377,779	364,559

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	22,305	20,881
短期借入金	1,382	1,916
1年内償還予定の社債	1,600	1,600
1年内返済予定の長期借入金	24,891	24,015
未払法人税等	3,456	1,558
引当金	2,300	1,480
その他	35,515	36,266
流動負債合計	91,451	87,719
固定負債		
社債	27,200	27,200
長期借入金	141,163	134,979
退職給付に係る負債	781	791
資産除去債務	3,100	3,110
その他	26,998	27,535
固定負債合計	199,244	193,617
負債合計	290,696	281,336
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,470	23,470
資本剰余金	24,261	24,049
利益剰余金	34,432	35,061
自己株式	△8,021	△8,021
株主資本合計	74,143	74,560
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△73	△75
繰延ヘッジ損益	△0	△133
退職給付に係る調整累計額	△227	△134
為替換算調整勘定	△1,680	△4,136
その他の包括利益累計額合計	△1,980	△4,479
非支配株主持分	14,920	13,142
純資産合計	87,083	83,222
負債純資産合計	377,779	364,559

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	144,047	153,319
売上原価	62,561	65,496
売上総利益	81,485	87,822
販売費及び一般管理費	78,527	83,381
営業利益	2,958	4,441
営業外収益		
受取利息	96	142
受取配当金	2	1
受取賃貸料	33	36
為替差益	—	75
持分法による投資利益	—	4
その他	195	216
営業外収益合計	327	478
営業外費用		
支払利息	179	505
賃貸費用	18	11
為替差損	19	—
その他	202	313
営業外費用合計	420	830
経常利益	2,865	4,088
特別利益		
固定資産売却益	114	0
受取補償金	24	12
受取保険金	20	21
その他	3	3
特別利益合計	162	37
特別損失		
固定資産売却損	0	—
固定資産除却損	367	172
減損損失	—	374
その他	123	116
特別損失合計	491	663
税金等調整前四半期純利益	2,536	3,461
法人税、住民税及び事業税	595	1,007
法人税等調整額	733	626
法人税等合計	1,329	1,633
四半期純利益	1,207	1,827
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	52	△96
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,154	1,923

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	1,207	1,827
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5	△3
繰延ヘッジ損益	691	△133
退職給付に係る調整額	4	93
為替換算調整勘定	△198	△2,455
持分法適用会社に対する持分相当額	—	△4
その他の包括利益合計	491	△2,503
四半期包括利益	1,698	△675
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,650	△574
非支配株主に係る四半期包括利益	47	△100

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	外食事業	小売事業			
売上高					
外部顧客への売上高	122,902	21,144	144,047	—	144,047
セグメント間の 内部売上高又は振替高	535	11	546	△546	—
計	123,437	21,155	144,593	△546	144,047
セグメント利益	2,886	71	2,958	0	2,958

(注) 1. セグメント利益の調整額0百万円は、主にセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	外食事業	小売事業			
売上高					
外部顧客への売上高	133,105	20,213	153,319	—	153,319
セグメント間の 内部売上高又は振替高	590	7	598	△598	—
計	133,696	20,221	153,918	△598	153,319
セグメント利益又は損失(△)	4,448	△6	4,441	0	4,441

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額0百万円は、主にセグメント間取引消去であります。
2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「外食事業」セグメントにおいて、店舗固定資産及び食品加工工場固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間において374百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「外食事業」セグメントにおいて、当社の連結子会社であるZensho Holdings Malaysia Sdn. Bhd. は、TCRS Restaurants Sdn. Bhd. の全株式を取得し、当第1四半期連結累計期間より同社を連結範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は5,067百万円であります。

また、上記の金額は、企業結合日以後、決算日までの期間が短く、企業結合日時点の識別可能資産及び負債の特定及び時価の見積りが未了であるため、取得原価の配分が完了しておらず、暫定的に算定された金額であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。